令和８年　第９回大河原町教育委員会定例会会議録

１　招集日時　　令和８年９月18日（金）　午後２時00分

２　招集場所　　大河原町役場　２階　第１会議室

３　出席委員　　一盃森広志委員、丹羽宜博委員、林恵美子委員、片倉亜寿香委員、
鈴木洋教育長

４　説明のため出席した者
櫻田尚　教育総務課長、齋修　生涯学習課長、千葉康弘　学校教育専門監、

５　開　　会　午後２時00分

６　令和８年第８回教育委員会定例会会議録の承認について
鈴木教育長｜（委員全員に諮って）承認する。
一盃森委員、丹羽委員　署名。

７　教育長報告
（１）一般事務報告
報告第８号　教育委員会教育委員の任命について
教育総務課長より説明。

鈴木教育長	一盃森広志委員が再任された件について、何かご質問等ございますでしょうか？
丹羽委員	ありません。どうぞよろしくお願いいたします。
鈴木教育長	ありがとうございました。本日の河北新報の記事もお配りしておりますのでご覧ください。またどうぞよろしくお願いいたします。 〔拍　手〕
一盃森委員	では一言。本日の河北新報の「議会だより」に載ってますよというのを、知人の方からのメールが入って知ったもの。朝一番で新聞を読んでいたが、議会だよりは見なかった。村田町も大和町も再任の記事が載っており、皆さん年齢が同じだったため、まだやっても良いのかなと思った。 教育長先生から丁寧にメールを頂戴したり、色々と対応していただき大変感謝申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

報告第９号　令和８年第４回大河原町議会定例会（９月会議）の結果について
教育総務課長、生涯学習課長より説明。

鈴木教育長	ただいまの両課長からの報告に対しまして、何かご質問等ございますでしょうか？
丹羽委員	最後の 11 番須藤慎議員の一般質問【公共施設（社会教育・生涯学習施設等）のオンライン予約・決済サービスについて】に対する齋生涯学習課長の回答について。これは便利だと思う。どういうことかというと、前は葬儀で誰かが亡くなると、役場の窓口に手続きに必ず来なければならなかった。電話では駄目で大変だった。だから今はもう LINE かパソコンでできるようになって非常に便利になっている。社会教育や生涯学習関係施設でのオンライン予約や決済サービスについても、ぜひともそういう風になれば便利でいいのではないかと思う。
生涯学習課長	検討を進めて参ります。
鈴木教育長	他にございますでしょうか。
一盃森委員	6 ページ、万波孝子議員の一般質問【学校体育館へのエアコンの設置】について。今年の熊本地震で、避難所にエアコンが設置されていないので、指定の避難所を開設しないというようなことがあって、特に学校体育館というのは指定されているケースが多いわけであり、そういったことを踏まえて、高市首相が、積極的にエアコンの設置を推進していくような話をしていたと思う。まだそういったことについては施策として出てきていないという段階なのかと思うが、これはあっという間に進んでいくような気がする。
教育総務課長	高市首相の発言とはまた別に、文部科学省のほうより学校体育館のエアコン設置が進んでいない状況を鑑みて、現在本町については小・中学校の普通教室と特別教室のほとんどにエアコンが入っている状況ですので、そういった活用も検討してほしいという通知が来ております。本町も、もし避難所になることがあれば、学校そのものが指定されておりますので、学校体育館ではないので、特別教室であれば授業の方にも影響は最小限で済むのではないかという考えもありますし、また人が集まると感染症の危険も増えることや、プライバシーの保護も問題になってくる。そのため、小分けにできる学校教室の活用を進めていくべきではないかということも、現在教育委員会では検討しております。以上でございます。
一盃森委員	そうなると、いままでの避難所の開設・運営の仕方とはまた異なった形での課題というか、運営の仕方も含めて出てくると思うが、子供たちの教育活動の保障ということが第 1 だと思う。その上で、どこまでどういうふうな形で開放することができるのかというのは、新たな課題というか、早急に取り組

	まなければいけない課題というふうなことになるのだと思う。その辺の見通しについて、もしあれば教えていただければと思う。
教育総務課長	先日の 9 月会議におきましても、町長は学校体育館にエアコンを設置するという考えでおります。まず第一弾には、大河原中から始めることになろうかというふうに話をしております。 また、これは一つの考え方ですが、さきの東日本大震災において学校体育館が避難所となったことがあります。そのときの期間は体育館だけではなく、各集会所も使っているが、最大でも 5 日間ぐらい。5 日間くらいであれば、学校を使っても、子供たちに影響のほうは少ないのではないかというふうに考えてございます。ただし学校体育館のエアコンのほうが、やはり避難所としてではなく、子供たちの体育で、大変必要な授業でございますので、こちらで進めていきたいというのを考えております。以上でございます。
鈴木教育長	高市首相からは、令和 13 年までに全部完了するよう指示もあったようだが、ただ今から 5 年先というのは、これは難しいことであり、補助金はあるものの、自治体の手出しの額がとんでもない額になる。そうすると自治体格差というか、経済格差というか、それで設置できない自治体も出てくるのではないかと思う。ただ大河原町は、そういう財力については心配ないとは思うが、色々なところでお金がかかるということで、体育館のエアコンを最優先にするか、ということを考えると、一気に五つの小中学校ではなくて、まずは今年は東部運動場で、来年は総合体育館、そしてその次が大河原中学校で、その後は順次考えていくということで、町長も順番については、議会の中でお話しましたので、そうなっていくのではないかと思っている。 なるほど。わかりました。

（2）専決事務報告　なし

8　議　　事　なし

9　その他

（1）教育長報告

1　ＡＩ（人工知能）

（1）ー人生に哲学を。ＡＩ時代の今だからこそ
疑い、問い続ける意義がある（小川仁志）

大きな 1 点目は、AI の人工知能について。先ほど丹羽委員から色々とお話がでておりましたが、AI の時代だからこそ大事にしなければならないことということで、そこで三つの資料を載せたもの。

まずは青山学院大学教授の小川仁志氏の著書。小川氏は哲学者であるけれども、京都大学法学部を出て、その後大手商社に入社したが、４年で退職し、4 年半ぐらいフリーターをしていた。その後に大学院に通って哲学の勉強を始めたという、変わり種というか、いろいろなルートで勉強した方なのだと思う。その小川氏が言うには、痛みを感じることもなく死ぬこともない AI がその子に寄り添った対応ができるとは思わない。AI は最大公約数的な正解を答えるでしょう。ですが、私なら答えは言いません。哲学者の仕事は問いを投げかけること。なぜそう思う。あなたはどう思う。というような問いかけをする。
常識を疑って、自ら問いを立てて考え続けることが、人間にしかできないことなのだということなのである。

確かに、これから生きる子供たちにとって、答えのない、いろいろな大きな課題がいっぱい出てくると思う。ですから考える力というのは、非常に今以上に必要になってくるのではないかと思う。

（２）ＡＩ倫理教育、中・高生のＡＩとのつきあいかた（1）（2）（今度珠美）

二つ目の資料は、今度珠美氏の資料で、その AI のリスクに共通しているのが「迎合性」なのだということ。特に自殺とか、そういうことを考えている中・高生にとったら、その迎合性が死へ誘導することになるということで、非常に危惧しているもの。子供たちが知るべき五つのポイントにも触れているが、つまり、うまく付き合っていきましょうということである。

新聞報道によると、次期学習指導要領では AI 教育の強化を図る。ただ、社会面をみると、ノルウェーでは AI 禁止、アメリカのニューヨーク市などでも禁止をした。外国では AI の禁止が広がっている。でも日本の教育は、これから AI 教育を進めていこうとしている。だから、そういうような負の部分を何とか脱却して、正しい使い方でもって持っていこうというような日本の教育のあり方だと思う。

（３）ＡＩの課題は「性能」？（大槻達也）

それから大槻達也氏は、元文部官僚であったので、はっきりとは言わないが、個別最適な学びへの活用可能性がある一方、過度な依存による思考力の涵養への影響というふうに柔らかく言っている。

２　探求学習・総合的な学習の時間

（１）「夢中」がひらく「探求」の道（さかなクン）

大きな 2 点目が、探究学習・総合的な学習の時間について。

1 点目がさかなクンのインタビュー記事。さかなクンのお母さんがすごいなと私は思った。さかなクンがゴミ収集車に興味を持ったら、その収集車が 30 台並んでいるところに連れて行って見させたとか、それから妖怪に興味を持っていると妖怪の本を買ってあげ

たとか。それから、タコに興味を持つと、「海の生き物」図鑑を買ったり、スーパーに連れて行ったり、水族館に連れて行ったり。そういう探求心を盛り立てようとするお母さんなのだと思った。

学校の先生が、さかなクンが勉強しないことをお母さんに言ったところ、「魚が好きなので今のままでいいです」とお母さんは答えた。学校の先生は偏りなく勉強した方が良いのではないですかと言ったことに対して、お母さんはそのままで良いと。すごいお母さんだと思う。やはり、一つ突出している才能というものをお母さんは見抜いて、それを育てたのだなと思う。結局さかなクンは、小学校の文集に「東京水産大学の先生」になると書いたが、実際になった。本当にすごいなと思います。

これからの学校教育で、そういうバランスの良い人間、総合的な人間力のある人間と、もう一つ、突出した力を持っている生徒、そういう生徒への対応も求められている。そして、学校の制度に馴染まない不登校とか、そういう子に対する対応も求められるということで非常に複雑・多様化している。これからの学校に求められるものというのは非常に大きなものになっているかなと思う。多様性の包摂というか、そういう学校なのだろうなと思っている。

（２）「総合」論説

現行学習指導要領の理念や趣旨に基づいた単元・授業づくり（齋藤博伸）

（２）の資料は、「総合」の論説で、文部科学省の調査官の資料。そこに、「ゆず」を取り上げた教材について書いてあったもの。

「おおがわら学」でもゆずを取り上げており、ゆず農家との関わりとか、ゆずの魅力とか、それからゆずを使ったお菓子とか、そういうものをだんだん発展的に扱っていく。これはいいなと思った。そこで考えたのが、現在、おおがわら学を編集しているが、その使い方について、最初は個別最適化ということで、1 人 1 テーマを選んで、その子がやりたいものをやる。それが一番究極だろうなと思ったのだが、この齋藤先生の論説を読んで、学校現場で考えると、テーマが 26 あって、それをバラバラにやられたら先生は対応できないと思った。そのためクラスで、テーマは 26 のうち、2 年生は三つ。そして 4 年生になったら別な三つとか、そうやって絞っていく。そういうようなやり方もありだなと思ったもの。学校の実情に合わせて、その対応能力、子供たちの興味関心への対応の体力があるかどうかによって、やはりやり方が変わってくるのだろうなと思った。そのため、そこのところは編集委員会でも議論してもらいたいなと思っていたとことである。

（３）ふるさとに誇りをもてる子どもを育てる（菅原義一）

資料の三つ目が、菅原義一先生の「ふるさとに誇りをもてる子どもを育てる」。

校長の記録で、この記録は、総合的な学習の時間が創設された初期のもので、先行実

践かもしれない。やはり新任校長だったので、本当にエネルギッシュに菅原先生は動いて、地域に入り込んで、人と人を繋いでいく。そして学びを豊かにしていって、相川小学校での総合的な学習の時間を作っていらっしゃった先生なのだが、本当にこういうふうな校長の情熱がないと、やはりうまくいかないのではないかと思う。

校長先生が先頭になって地域に出ていって、地域と関わっている。先生方もそれに一緒になっていく、そういうようなものがやはり成功する一つのやり方なのだと思う。

2年目、3年目からとなると、今度はやり方は変わってくると思うが、最初の開拓というは非常にそういうエネルギーや情熱が必要なのだと思う。そのため、おおがわら学の活用についても、最初の校長先生の扱い方というのが非常に大きく、これから以後の展開に非常に大きな影響を与えるのではないかと私は思っている。

そのため、この菅原先生の実践を読んでいただいて、これほど校長が一生懸命やって、地域に入り込んだというのをわかってほしいと思い、そこに載せたもの。

再来月は、同じ本に石井順治先生が新任の校長のときの記録が書いてあり、それを載せたいと思う。

３　いじめ問題・保護者対応

（１）教員が苦慮し、教員志望者が不安視する「保護者対応トラブル」の現状
（小野田正利）

（２）いじめ重大事態調査における心理的所見（坂口仰）

（３）保身に走る校長や教委が、教師を絶望させ教員志願者を減少させる（小野田正利）

（４）いじめ法施行から１３年目を迎える中での「誤学習」と「過剰適応」（小野田正利）

（５）「ガイドライン」の意図は（佐々木幸寿）

（６）「社会通念を超える言動等」への対処法（佐藤香代）

それから大きな3点目、「いじめ問題・保護者対応」について。

小野田先生が書かれたものを見ると、保護者からの執拗なクレームで亡くなった事例がある。先生方が自殺したりということが多いのだなと思う。これでは駄目だと思うし、それから精神疾患で休んでいるような先生の60%は子供の対応と、保護者対応なのだということ。これはやはり真剣になって考えていかなければならないと思う。

４　全国学力・学習状況調査

（１）令和８年度全国学力学習状況調査結果

（２）全国学力・学習状況調査で出題された
「漢字の読み書き」「数と計算」「数と式」

大きな4点目は、全国学力・学習状況調査について。前回も大体お話をしたが、小学６年、中学３年は進学する学年であるので、補充学習を強化していきたい。他学年については、繰り返し点検・評価を行うなど、危機感を持って取り組んでいきたい。

私は中学校の国語を何とかしたいと思っており、今国語の授業記録を作っている。素晴らしい授業をした先生がおり、今年変わってきた先生なのだが、その先生の授業を起爆剤として、私はその国語の力を中学校の先生方に頑張ってもらいたいと思っている。

あとは英語についても、やはり低いと思う。郡部ではやはり上の方だと思うが、まだまだ低い。今年度ＡＬＴを１人増員したので、どうなるかそこは楽しみにしている。

また、小学校英語が始まって、中学校の英語が充実してるかというとそうではない。やはり、小学校での英語力が中学校で繋がっていない。英単語も、600 ぐらい小学校で覚えなくてはいけないが、それも覚えていない。中学校では、小学校でやったものということで、それは覚えてるはずだというふうにして扱うのだけれども、そこは伸びていない。

中学校でもう一回しなければならない。昨年度に「小学生の英単語」という冊子を町で作成して持たせているが、これを使って少し英単語テストでもやろうかなと思っている。

小学校６年生のある段階で、どの程度身に付けているのか。本当に基本的な英単語ぐらいはきちんと覚えてほしいなと思う。

５　石井順治先生資料

（１）「音読をすれば読みは深まるの？」（石井順治）

（２）「対話的学びをつくる～算数の授業を中心に」講演会記録

（３）２つの授業記録に対する石井先生からのメッセージ

大きな５点目は、石井順治先生の資料。「音読をすれば読みは深まるの？」という学びの便りから載せたもの。やはりすごいなと思う。文学の授業だけは他の教科と違う。やはり文学だけは特別だと思う。

それから、（２）は大河原小に６月にいらっしゃったときの講演会の記録。講演会をビデオ撮影したものを文字起こしし、パソコンで作成した。これも結構時間がかかったが、全職員に配布し読むようにしてもらいたい。

（３）は、石井順治先生からのメッセージで、金ケ瀬小の松﨑みき先生の「おおきなかぶの授業」と、あと昨年度まで大河原小にいた菅原海先生の算数の授業記録をお送りしたもの。石井先生から非常にありがたい言葉をいただいて、全国の教育長で授業記録を作っているのは私だけだというふうに言われて。非常に嬉しくなった。また作らなければいけないとそういう気持ちにさせられる石井先生からのメッセージをいただいたもの。

６　特別支援教育支援員の校外学習等に係る引率業務についての調査まとめ

大きな６点目が、特別支援教育支援員の校外学習等に係る引率業務について。これも今までは、先生だけで引率していたが、やはり何か起こったとき、１人でも多くいた方がいいということで、これも議会の一般質問にあったもの。予算を見るとそこまで大きな額ではなく、いつでもできるような額であるが、一応各学校から必要経費を出していただいた。遠足などの行事のときに支援員の方が一緒に行く。その際の入場料やバス代を予算化し

令和９年度から実施予定としている。これも３月議会で認められれば良いと思っている。

７　県教委主催「算数チャレンジ大会２０２６　本線出場チーム」

大きな７点目は、算数チャレンジ２０２６　本選出場チームについて。

参加チームが県内５２７チーム、参加児童数１，５８１名、参加学校数１６２校。そのうち、３０チームが本選に出場して、その中の１位となった。県１位である。すごいと思う。１００点満点で８０点をとって立派である。大河原町では９年ぶりの快挙である。

８　　教職員の事故防止（風通しのよい職場づくり）　他人事ではなく他山の石として

９　　生徒指導

１０　人事異動等について

１１　その他

（１）世界・日本の大昆虫展

（２）子ども夏まつり

（３）地域学校協働本部ネットワーク会議「トークフォークダンス」

（４）大河原小　指導主事学校訪問（１年・６年算数）

（５）大河原小　全学級道徳授業の日

その他について、昆虫展については、１，１００人を超える来場者があったということで、大河原南小の成田校長先生からも標本を出していただいたもの。

金ケ瀬子ども夏まつりについて、金ケ瀬公民館で行われたが、３５０人ぐらいが集まった。このときは金ケ瀬中学校の女子生徒を中心にボランティアで手伝ってくれた。非常に社会貢献をしてくれたと思う。

丹羽委員	寿限無を学校でやっていると思う。あのような感じで英語もやらせたらどうか。普段の生活の中で毎日のようにやらないと、身に付かないと思う。 せっかくあのような素晴らしい本があるわけだから、皆で朗読するようにしたらどうか。
鈴木教育長	使い方というか、活用の仕方も本の中に載せているが、そこまでやはり英語の先生は、専科の先生であるため、専科の先生の意識がどうかということが問われていると思う。
丹羽委員	ただ、発音の仕方も書いてありますよね。だから普通の先生方でできるのではないか？それで専門の先生方には、その発音を見ていただいて直していただいたりとかしてもらう。逆に普段の専門の先生でなくてもやっていただいたほうが私はいいと思う。単語だけで言葉は通じる。せっかくだから活用した方が良いと思う。

	算数チャレンジはすごいと思う。これで思い出したことがあったが、３日前にうちの小学校２年生の孫が算数のテストを持ってきた。文章問題もあり、小学２年でカッコの問題が出てきていて大変驚いた。聞くと、小学４年でカッコの問題は大体完結するとの事。それが解らないと、自分も小学校の頃、因数分解であるとか方程式とか関数の問題とか、そういうのが解けなくなってきたが、そのとき大切なことをその時期にきちっと学んでおかないと、次に生かすことができないということを学んだ。自分も反省したわけだが、そのときにやっておかないと後で苦労する。男の先生のようだが、居残りをさせてやっていると孫が言っていた。要するにわからない子に居残りで教えている良い先生だなと思った。 やはり大事なことやそのとき大切なことをしっかり学んでおかないと、後で苦労するよということを、やはり先生はきちんと指導していただいており、ありがたいと感じたもの。
一盃森委員	教育長報告からはちょっと外れるが、大河原町政施行 70 周年の式典のご案内をいただいた。要するに、昭和３０年の合併で、金ケ瀬村と一緒になって、新しい大河原町ができたということで、70 年経ったということだと思う。 そうすると、70 年前だから、そこから教育も 70 年経った。何を言いたいかというと、やはり町政 70 周年で、教育活動も 70 年で振り返る節目の時期ではないか。そういうことを校長先生初め、先生方にもしていただいていいのではないかと思う。町でこういうふうに大々的に考えているというわけだから、教育も一緒ではないかというふうに思った。 大河原中で立志式を始めたのは昭和３９年からで、浜田広介先生の提唱で全国的で始まったのに対していち早く大河原中で始めたもの。戦後まもなくの第１次の少年非行のピーク、３０年後半の第２のピークという中で、立志式を浜田先生が提唱されて、大中が受けた。昭和３９年は考えてみると終戦から２０年であり、東京オリンピックが象徴的な出来事としてあってイケイケだった一方で、子供はなかなか落ち着かないというのが続いて、大中のことだけ言っても、つい 10 何年前までは賑やかだった。だからそういう中で、こうやって落ち着いて教育活動ができて、それで学力をどういうふうにしたらば身に付けさせられるかと、学び合う学びというふうなことを実現させていくためにはどういうふうに取り組んでいけばいいのだろうか、というふうなことを語って、教育活動、子供たちと向き合うことができるというふうになってきたということを、やはり、それまでの教育長の方達はもちろん、最前線に立っている先生方の愛情と、それから努力、工夫色々なことがあって、それで地域の人、保護者の皆さんと力を合わせて、明日青という組織もできて現在に至る訳だけれども、やはりそのことをもう１回考える良い機会なの

	だろうなということを考えたもの。 石井先生の今回の論説は非常に優しいというか、よくわかる言葉で書いていただいて、うん、そうだよねという、物語文を教材として取り扱うときには、こういうふうな姿勢が大事だよねと思った。だから、10 月 23 日の研修会を楽しみにしている。大河原小学校の先生方がどういうふうに扱って考えてるのかなというのを楽しみにして臨むことができればなと思った。 ＡＩの話について。今日も昼のニュース番組で、イギリスのチャールズ国王が世界各国のＡＩ企業の幹部を集めて、サミットを開いたとのこと。 やはり便利な反面、危うさがあるということで、ついこの前は今後 10 年間でＡＩが人類を滅ぼす可能性があるというようなことも報道されていた。便利さと危うさが、これだけ極端なものはないだろうというのはまず置いておいて、本当に人類が滅ぶのかどうかは何とも言えないわけだが、開発に力を入れてるのは、アメリカや中国で、それに対して人類に有用に機能するように制限をかけていこうというのがヨーロッパ諸国という、この構図がある。その中でやはり今は便利なものを有効に使っていくということで、教育活動に取り入れていくというのが私はいいのだろうなと思う。 ８月初旬に、県内の中高生９校から２４人集まっての合宿があり、そこに３日間ついていた。今度珠美先生の論説で、13 ページにＡＩとのつきあいかたの５つのポイントが書いてあったが、１番から３番は、当然今の子供たちはそういうことをわかった上で使いこなしている。賢い子供たちだったので、4 番・５番を踏まえて、「ＡＩを飼っているんです」という言い方をしていて、びっくりした。要するに我々の世代だと、「たまごっち」があったと思うが、こうやって育てていくという。だから一番 2 番を前提にしつつ、自分にとって自分の傾向、考え方の傾向を踏まえながらＡＩは返答してくるので、それを逆手に取って、わざと意地悪をしたりとか、わざと自分はそうじゃない考え方なんだけど、本当はこうだよねと言って、ＡＩを混乱させる。だからその結果、ＡＩがどういうふうに襲いかかってくるのかわからないが、とにかく「飼っている」という言い方をしたのに本当にびっくりした。 今そういうふうに子供は使っているんだよということもちょっと踏まえて、対応していくことも必要なのかなというふうに感じたもの。
林　委　員	今のＡＩの話に続くが、そうやって混乱させると、ＡＩがそれを学ぶ。そういうＡＩになってしまう。そうすると助言が、そういう助言になっていく。これがやはり恐ろしい。海外のＡＩ開発企業のＣＥＯが、開発を減速すると言っているのは、今は人間がＡＩを作っているけれども、ＡＩがより高性能なＡＩを作る時代が来る。そういうふうに言っており、その前にその暴走を止める方法、セキュリティを強化する方法を並行で開発しないと手遅れにな

るということで、警戒から減速をする。優れたＡＩを開発する、その先端を行くことをちょっと減速しましょうと話し合っているのだと、いろいろとニュースを読んでてそういうふうに思った。本当に今から良き人生を歩んでいく子供たちが、その混乱したＡＩに依存してはいけないと思っているので、やはりそこが学校の先生方も、親も一緒になって考えていかなければならない。ＡＩを使うことはもちろん、その便利なものを使うことはどんどん進めるべきなんだけれども、一方で怖いことをたくさん含んでいるということをやはり知る必要があるというふうに思っている。

二つお話したいが、いじめ問題とか、不登校問題について考えるときに、まず押さえなければならないのは、当事者である子供たちはまだ未完成な成長途上にあるということだと思う。子供が困っている状況や、辛い状況になったときに、どうして相手がそうなのか、あるいは自分がどうしてそういう気持ちになるのかというのを、一緒に考えて良い関係を作ったり、また、登校できるような気持ちの余裕を持つにはどうしたらいいかというふうなことを大人は子供と一緒に考えてあげる。その乗り越え方を身に着けて行かせる、というのも大人の務めではないのかと思う。

小学校とか中学校という段階は、自分と１人１人違うわけですから、友達級友みんなと違うわけですから、いろいろな摩擦とかいさかいがあるのは当然のことだと思う。そういう人たちが良い関係でいくにはどうしたらいいかということを、つらい思いをしたときに、一緒に考えて乗り越えて解決していくということを経験していかなくてはいけない段階にあると思う。なので、必要以上に大人がガードして、子供を囲い込んでしまって困難から遠ざけるということは子供の成長を妨げるし、そういうことではなくて、どうしたら解決できるかな、どうしたらもっとより良い自分になれるかな、ということをこれは小さなことから経験を積み重ねていくように支えて教えてあげるというのが大人の務めじゃないかなというふうに思っているもの。

もう一つは、総合的な学習の時間の、菅原義一先生の資料であるが、やはりこれは研究に必須の指南書であり、かつて単元開発のお手本として読ませていただいたことを記憶している。一つの追求が、次の追求にどんどん繋がっていくこと、追及を広げたり深めたりしていくということの実際が本当に見事に表せているものだと思う。

それで、おおがわら学に取り組む際にも本当に活かしていただきたいなというふうに思った。このような実践をするためには、やはり私自身が単元を構想する際に、どこまで子供たちに調べられそうかとか。どこと繋がったらわかりそうだというようなところを、先生方自身が柔軟に、そしてかつダイナミックに構想していっていただきたいなというふうに思っていて、このおお

	がわら学のいま編纂されている資料は､そこからまたもっと派生するものを、可能性をたくさん秘めていると思うので、そういった使い方をしていただきたいなと心から希望している。
片倉委員	私もＡＩについて。ＡＩの使い方は子供によって違うなと思うのが、うちは高校生と中学生の子がいるのだが、高校生の子のほうはＡＩを使っている年数も変わってくるので、ＡＩを自分好みにしていくというか、先ほど一盃森委員もおっしゃってたように、ＡＩに負けないではないが、自分の意見を言って、それが返ってくると、ちょっと違うことを言われると、自分好みではないけれども作っていくというか、そういうやり取りをしてるなという、それを楽しんでるなという。ちょっと怖さを感じる。あと、今中学校１年生の子だと、知ったばかりというかまだそこまで情報がないので、質問ばかりのやり取りをしている。使いこなし方がだんだん年数を重ねるとＡＩを自分好みに使うようになってくのかなという怖さもあるので、やはりここに書いてあるようなＡＩとのつきあいかたを保護者に知ってもらうというのは、私も良いことだと思う。 あと、英語について。中学校１年生で英語をやってみて思うのだが、せっかく小学校で英単語をもらっていろいろやったのに、中１になるとまたアルファベットからやる。それはいらないのではないかと思う。小学校でやってたのに、またアルファベットの書き方をやって、そこからいきなり文書問題が始まる。そうすると、単語を知ってる子、知っていない子ですごい差が出るのではないかなと思うので、私もテストはやっても良いのではないかなと思う。せっかくインプットしたのがアウトプットできてないのがかわいそう。やったのにまたアルファベットからやると、なんかゆっくり進むのかなと思ったら、急に文章問題で付いていけなくなるので、それだったらアルファベットはいらないのではないかなと思う。５年生ぐらいからやっていたので、ちょっと繋ぎ方がもったいないと思う。小テストでなくても、5 問 10 問ずつでもいいので、文章を読めなくても、知っている単語が一つあるとこういうこと言ってるんだなというのがわかるので、それはやってもいいのではないかなと私も思ったもの。

（２）各課長報告

教育総務課長、生涯学習課長

令和８年度行事予定について説明。

１０　次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長｜次回の定例教育委員会は令和８年 10 月 16 日（金）午後２時から開催する。

１１　閉会宣言　午後 3 時 45 分

令和８年 10 月 18 日

署名委員

署名委員